

平成二十八年度 中学校入学試験問題 国語

※ 字数制限がある問題は、「、」「や」「。」も一字と数えます。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一

多くの植物を、我が物のように利用してきた人類。

しかし、すべての植物が従順に、人間に従っているわけではない。反キを翻して、人間に戦いを挑んできた植物もある。

「雑草」である。

雑草は、田んぼや畑に侵入し、人間が施した肥料を横取りしながら、作物の生育を邪魔する。また、人間の生活空間にはびこって、私たちの生活を阻害するのである。

雑草とは何か。

この問いに対して、アメリカ雑草学会は「人間の活動と幸福・繁栄に対して、これに逆らったり、妨害したりするすべての植物」と定義している。何という邪悪な植物なのだろう。古くから西洋では雑草は、悪魔が種をまいていると言われている。まさに人間の幸福を邪魔する新たな敵が現れたのである。

人間は田畑を拓き、農業を始めることによって、安定的な生活ができるようになった。そして、文明社会を築いてきたのである。しかし、その農業の歴史は、まさに雑草との戦いの歴史であったと言われている。有史以来、人類は雑草と戦い続けてきたのである。

昔の農業は大変だった。何度も何度も田畑をはいつくばって、雑草を取らなければならなかったのである。

しかし、草取りをする人間も大変だが、抜かれる雑草の立場になってみれば、雑草も大変である。何度も何度も行われる草取りから身を守らなければならないのだ。

イネを栽培する田んぼは、何度も何度も草取りが行われた場所である。小さな雑草であれば、イネの株間に身を潜めていることもできるだろうが、大きな雑草では逃げ場がない。大きな雑草は、^①どのようにして草取りから身を守ればよいのだろうか。

この難問を解決したのが、タイヌビエというイネ科の雑草である。

じつは、タイヌビエはイネとそっくりな姿をしている。こうして人間の目を欺いて田の草とりを逃れるのである。まさに「A」の喩えどおり、田んぼにたくさんあるイネに紛れることで、タイヌビエはみごとに身を隠してしまうのである。

カメレオンのように周りの風景と同化したり、ナナフシが木の枝に似た体や手足を持つように、別のものに姿を似せて身を隠すことを擬態という。タイヌビエは作物に似せる「擬態雑草」と呼ばれている。何度も何度も草取りが行われるうちに、イネに似ている個体選ばれていった。そして、ついにイネにそっくりなタイヌビエが誕生したのである。

庭の草むしりは、大変な作業である。

しかも憎たらしいことに、きれいに草むしりをしたつもりでも、一週間もすれば、また雑草が生えてきてしまう。② どうして、雑草はこんなにもしつこいのだろうか。

しかし、草むしりをして、雑草が芽生えてくるのには、理由がある。じつは、人間が草むしりをすることによって、雑草の発芽が引き起こされているのである。

じつは、雑草の種子の多くは、光を当てると発芽が始まる「光発芽性」という性質を持っている。つまり、雑草の種子は光を感じて発芽を始めるのである。種子に光が当たるということは、まわりにライバルとなる植物がまったくなくなったということの意味している。そのため、光が差し込むのを合図に、雑草の種子は一斉に芽を出すのである。

草むしりをする、まわりの雑草がなくなつて地面に光が当たる。そして、土がひっくり返されると、土の中にまで光が差し込む。すると、それまで眠っていた雑草の種たちが一斉に発芽を始めるのである。

「雑草のように強い」と比喩されるように、雑草には「強い」というイメージがある。しかし、植物学では、雑草は強い植

物であるとはされていない。むしろ、「雑草は弱い植物である」と言われている。^③これは、どういふことなのだろうか。

じつは雑草と呼ばれる植物は、他の植物との競争に弱いのである。

植物は、光や水を奪^{うば}い合い、生育場所を争って、激しく競争を繰^くり広げている。雑草はそのような植物間の競争に弱い植物である。そのため、たくさん植物が生い茂^{しげ}るような自然豊かな森の中には、雑草と呼ばれる植物群は生えることができない。

そこで、雑草は、他の植物が生えることのできないような場所を選んで生^くソク^cしている。それが、よく踏^ふまれる道ばたや、草取りが頻^{ひん}繁^{ばん}に行われる畑の中など、人の暮らす場所なのである。草取りをしたり、耕^くされたりすることは、雑草にとって過酷なものである。しかし、そうして人間が管理することで、強い植物が侵入することも防^ふがれている。もし、人間が草取りをやめれば、競争に強い植物が次々と侵入して、植物どうしの戦いの末に、やがて雑草を駆^く逐^{じく}してしまうだろう。

【注4】ぜん 禅問答のようだが、草取りをやめれば雑草はなくなり、草取りをすることで雑草は生存できるのである。

雑草は、人間の暮らしている場所では、生きることのできない植物である。草むしりはされたくはないが、草むしりされないと生きていけない。これが雑草の背負^そっている宿命である。

雑草にとって、人間は敵であると言いい切れない。

じつは雑草は、人間に寄^より添^そっているのである。もしかすると、寄^dセイして利用していると言う方が正しいのかもしれない。雑草にとって、人間はなくてはならない存在なのである。

(稲垣栄洋『たたかう植物——仁義なき生存戦略』一部改)

【注】1 阻害……じゃまをすること。

2 ナナフシ……昆虫の一種。

3 駆逐……追い払うこと。

4 禅問答……話のかみ合わない問答のたとえ。

問一 ——線①「どのようにして草取りから身を守ればよいのだろうか。」とありますが、どのような方法があると説明されていますか。その方法が述べられている部分を本文から十五字程度で抜^ぬき出して答えなさい。

問二 ——線②「きれいに草むしりをしたつもりでも、一週間もすれば、また雑草が生えてきてしまう。」とありますが、それはどうしてですか。その理由を百字以内で答えなさい。

問三 ——線③「これは、どういうことなのだろうか。」とありますが、その答えとして最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 雑草は、他の植物よりも早く芽を出して広がっていくので強い植物だと思われるが、そのぶん根が浅いのですぐに抜かれてしまう植物だから。

イ 雑草は、人間が耕した田畑に短い期間で広がっていくので強^くそうに見えるが、他の植物と比べて環境のわずかな変化にも弱い植物だから。

ウ 雑草は、他の植物が育たないような養分の少ない土地でも発芽するので強く見えるが、養分の豊富な森の中では育ちにくい植物だから。

エ 雑草は、取っても取ってもすぐに生えてくるので強い植物だと思われるが、他の植物が豊かに生育している場所では生きていけない植物だから。

オ 雑草は、草むしりをする人間にとって邪魔な存在なので強^くそうに見えるが、実際は日陰や水の少ない場所では繁殖できない植物だから。

問四 空欄 A にあてはまる最も適切な言葉を次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 頭隠して尻隠さず
- イ 船頭多くして船山に上る
- ウ 枯れ木も山のにぎわい
- エ 朱に交われば赤くなる
- オ 木を隠すときは森へ隠せ

問五 この文章では、雑草にとって人間はどのような存在だと書かれていますか。五十字以内で答えなさい。

問六 線 a～d のカタカナを漢字で書きなさい。また、それと同じ漢字を使うものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 反キ

- ア 不注意にキ因する事故。
- イ 一年ぶりに職場に復キする。
- ウ 児童会のキ定に反する。
- エ 日本選手団のキ手を務める。

b 有シ

- ア 会員としての権利を行シする。
- イ 全校生徒に避難のシ示を出す。
- ウ シ実に基づいて作られた映画。
- エ 開会式で一シ乱れず行進する。

c 生ソク

- ア 無病ソク災を願う。
- イ チームの結ソクを図る。
- ウ 自給自ソクの生活を送る。
- エ 安全確保の鉄ソクを守る。

d 寄セイ

- ア 共同セイ明を出す。
- イ 夏目漱石のセイ誕百年記念行事。
- ウ 夏休みに帰セイする予定だ。
- エ 国際事情にセイ通している。

二
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学二年生の純也が原っぱでカーブを投げる練習をしていると、見知らぬ少女が現れる。少女は純也にカーブの投げ方を教え、練習すればできるようになる、と励ます。少女と別れたあと、いつもより遅い時間になってしまっていることに気づいた純也は、あわてて帰宅する。

家の玄関口に上がると、純也はわざとせわしない足音をさせて、

「ごめん。今からすぐに淑子のところへ行くから」

と大声で言った。

いつもなら、何をしよったの、と怒る母の声はすぐに返ってこなかった。

純也が廊下に立ち止まり、台所にいるはずの母の様子をうかがった。

——淑子の具合が良くないんだ……。

純也はそう思っ、グローブを放り投げ、台所に入った。

母は黙って、夕食の準備をしていた。背中が丸まっている。何かを我慢しているのが、純也にもわかった。

母と、淑子と純也の三人暮らしだった。父親がどんな人なのかは知らない。父親がいなかったことを辛いと思ったことはなかった。三人の暮らしは、いつも笑い声がして楽しかった。家の中にかげりが見えはじめたのは、半年前のことだった。

「難しい病気にかかったのよ……」

今まで見たことのない母の憂鬱な顔とくぐもった声で、純也は妹の病気の厄介さを察した。

純也と淑子は二卵性双生児だった。

純也が兄で淑子が妹だということは、純也にはよくわからないが、純也以上に小柄で弱々しい淑子を見ると、自分が淑子を守ってやらなくてはならない、と幼い頃から思っていた。男児と女児は、男児が女児を守ってやるのが仕来りだと、徳造爺さんから教わっていた。

「男が女を守るんは、当たり前のことじゃからのう」

徳造爺さんはそう言う。

純也は、徳造爺さんが好きだった。母は、自分たちの唯一の親戚である徳造爺さんをなぜか嫌っている。それでも時折、徳造爺さんが純也を誘って遊びにいかうと言出すと、母は黙って純也を送り出す。

徳造爺さんが純也を連れ出す場所は、いつも野球場である。爺さんはスタンドに腰を下ろして、買ってきた缶ビールを舐めるようにして飲んだ。

「ほうっ、あれはいい選手だわ」

徳造爺さんはぼつりと言う。

爺さんが誉める選手は、たいがいが小柄な選手である。

「これは逆転しような……」

そう言う、劣勢だったチームが逆転勝ちをした。

「トクジイ、どうして逆転するのがわかったの？」

純也が訊くと、徳造爺さんは笑って言う。

「そんなことは誰にもわかりやせん。ただ野球いうゲームは、懸命になつとる方へ勝運がむきよるからの……。奇妙なゲームじゃ」

「ケンメイって何じゃ？」

純也が訊き返すと、

「ケンメイか……。」

A

「じゃ。」

とまたぼそりと言う。

純也には、徳造爺さんの言葉の意味はよくわからないが、初めてキャッチボールを教わった時、徳造爺さんはボールを純也の手に握らせて言った。

「このボールはおまえの胸の中にあるもんが、そのまま出よう。真っ正直にやつとれば、真っ直ぐ放れるし、真っ直ぐ飛んでいく。ひねくれとつたら、ひねくれたものが出よう。このボールの中には、おまえのことをいつも見てくれとる者が隠れてるんじゃない」

「本当か？」

純也は徳造爺さんの顔を見た。

徳造爺さんは、前歯の抜けた口を開いて大きくうなずいた。

その徳造爺さんが、先月からいなくなった。爺さんが独りで暮らす上市の家に、母に言われて煮物を届けにいくと、木戸に墨文字で、留守と書かれた紙が貼ってあった。

純也は、夕暮れ、廃工場の原っぱで逢った少女の話を爺さんに話したかった。

——あのさ、その握り方じゃ、ボールは曲がらないんだよ。

あのさ、という言い方は、どこの者の言い方なのだろうか。聞き慣れない言葉遣いで、少女が他所から来たことは純也にもすぐにわかったが、悪い感じはしなかった。

今日の午後、旭町に松商の練習試合を見に行った後、上市の爺さんの家の様子を覗きにいったが、まだ帰っている気配はなかった。留守の貼り紙はどこかに失せていた。

純也は爺さんに訊きたいことがあった。

それは野球の試合の時に、選手たちが使う妙な言葉だった。

「どんまい」、たしかそう言った。

その言葉をかけられた相手は、二度、三度うなずいて、声をかけた相手に軽く手を上げ唇を噛む。

「どんまい」

純也は一人で声に出してみた。

「純也。何か言うたが？」

台所から母の声が返ってきた。

「いや、何も言わん」

「ご飯の支度ができたから早う食べて淑子の所に行つてやり」

「わかった」

卓袱台の前に座つて夕食を食べはじめると、着替えた母が入ってきた。

「淑子は昨日から熱が出とるから、騒いで疲れさせてはいけんよ」

「うん、わかった」

「それと、これ、病院に行く前に、魚勝さんの所に届けといて。遅うなつてすみません、て言うといてね。それと朝御飯は水屋の中に用意してあるからね」

母は言つて、卓袱台の上に封筒を置いた。化粧の匂いがした。淑子が入院してから母は夜も道後の街に働きに出るようになった。昼は道後の旅館で仲居をしている。

純也は味噌汁を具と一緒に一気に口の中にかき込んで、白飯をよそおうと炊飯器の蓋を開けようとして、背後に何か気配を

感じて振りむいた。

母が戸口に立ったまま、じっと純也を見つめていた。

「何、どうしたん？」

純也が訊くと、母は何か考えごとでもしていたのか、目を覚ましたように首を振った。

「……何でもないよ」

母は笑って、純也を見返した。

玄関の戸が閉まる音を聞きながら、純也は、今しがた母が見せた表情を思い出した。夏が過ぎてから、時折、母はほんやりとひとつとつとを眺めていることがあった。純也が声をかけても、母は気付かず、じっとたたずんでいる。母の目は視界に映る何かを見つめているふうではなかった。そんな母の姿を見るのは初めてのことだった。純也は妙な不安を覚えた。

(伊集院静『どんまい』一部改)

【注】 1 松商……愛媛県立松山商業高等学校。

2 水屋……茶器・食器類を入れておく戸棚。

3 仲居……旅館で客の接待や世話をする女性。

問一——線①「わざとせわしない足音をさせて」とありますが、純也がそうにしたのはなぜか、その理由を八十字程度で説明しなさい。

問二——線②「淑子の具合が良くないんだ……。」とありますが、ここでいう「淑子の具合」が具体的に記されているところを、本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問三「ケンメイか……。 A 」とありますが、空欄 A には、徳造爺さんが言う「ケンメイ」の意味が入ります。あてはまるものとして最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 他人のことに構わず自分のことだけに集中すること
- イ 念入りに相手のチームについて調べて備えること
- ウ 自分にできることを精一杯やること
- エ 自分のプレーを冷静に分析すること
- オ 反則をしてでも勝とうとすること

問四——線③「このボールの中には、おまえのことをいつも見てくれとる者が隠れとるんじゃ」とありますが、徳造爺さんは純也にどのようなことを伝えようとしていたのですか。次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア ボールは、努力すればするほど望む方向へ飛んでいくということ。
- イ ボールには、投げる人間の心の内を見透かす力があるということ。
- ウ ボールの中に、自分の真実の姿を見てくれる野球の神様がいるということ。
- エ ボールの飛び方に、自分の野球に対する気持ちがあるままあらわれ出ること。
- オ ボールは、真剣に練習している自分の姿を一番よく理解してくれているということ。

問五 ――線④「背後に何か気配を感じて振りむいた」とありますが、それは母のどのような気配だったと読み取れますか。その説明として最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 純也に何か思い切って打ち明けようとする母の気配。
- イ ぼんやりと考えることをしているような母の気配。
- ウ 何かを我慢して誰かに助けを求めたい様子の母の気配。
- エ 思い詰めて切羽つまった様子の母の気配。
- オ 純也を責めるように見つめている母の気配。

問六 純也の、「今日」一日の行動を次の中から五つ選び、起こった順に並べ替えて、番号で答えなさい。

- ① 徳造爺さんの家に様子を見に行く。
- ② 自宅で夕ご飯を食べる。
- ③ 徳造爺さんに「ケンメイ」の意味を聞く。
- ④ 妹の淑子が重い病気であると知る。
- ⑤ 原っぱで見知らぬ少女に出会う。
- ⑥ 徳造爺さんと一緒に野球の試合を見に行く。
- ⑦ 松商の練習試合を見に行く。
- ⑧ 母に「どんまい」の意味を聞く。
- ⑨ あわてて自宅に帰ってくる。

問七 次のうち、本文中の内容に合うものには○、本文中の内容に合わないものや、本文中に記述のないものには×をそれぞれ記しなさい。（すべて同じ記号を選んだ場合は、0点とします。）

- ア 父親がいた時は、家の中にいつも笑い声が絶えなかった。
- イ 母は徳造爺さんのことを嫌っていたが、上市の爺さんのことは慕っていた。
- ウ 淑子が入院してから母は夜も働くようになった。
- エ 純也と二卵性双生児の淑子は生まれつき難病で体が弱かった。
- オ 純也は他所から来た少女が言った聞き慣れない言葉遣いに嫌悪感を抱いた。
- カ 母は純也に、唯一の親戚である徳造爺さんの所へ食べ物を持っていかせたりもしていた。

受番	験号
氏名	

◆ 字数制限がある問題は、「、」「や」「。」も一字と数えます。

15字

1

問

[illegible]

問

[illegible]100
字

問
答
集

101

問四

7

問五

[illegible]

50
字

[illegible]

問六

a	
記号	漢字
b	
記号	漢字
c	
記号	漢字
d	
記号	漢字

(b)(6)
(b)(7)(C)

問

[illegible]80
字

問

[illegible]

10
字

問三

問四

11/11/11

問五

--	--

問六

↓

11

↓

1

↓

11

↓

□

問七

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	